

## 丹波大納言小豆を味わう ぜんざい給食を実施

11月27日から29日まで、市内の幼・小・中学校で、給食に丹波大納言小豆を使用したぜんざいが提供されました。

この企画は、子どもたちにあまりなじみのない小豆を身近に感じてもらおうと実施されました。「ぜんざいを家で食べることがない。甘くておいしい」と大喜びで食べていました。



小豆たっぷりのぜんざいに思わずにっこり

## 無形文化財指定から60年の節目 丹波布記念展を開催



丹波布の着物や布団などが展示された会場

11月18日から26日まで、丹波の森公苑で、丹波布技術保存会主催の記念展「丹波布に魅せられて」が開催されました。これは、丹波布が国選択無形民俗文化財に指定されて60年の節目を迎えたことを記念して行われたものです。

訪れた人は「製作が活発だった当時を知ることができた。布収集家の貴重なコレクションもあり、勉強になった」と話していました。

## 丹波市創生シティプロモーション SEEDS Asia と協定締結



連携協定を結び握手を交わす中川裕子事務局長（写真左）と谷口市長

11月22日、丹波市創生シティプロモーション全国公募パートナーシップ事業のパートナーとして、アジアと日本で防災教育に取り組むNPO法人SEEDS Asiaと協定を締結しました。

市とSEEDS Asiaが協働して、平成26年8月の豪雨災害の経験をもとにした、スタディツアーを展開し、交流人口の拡大を図ります。

## 旧西垣家住宅が 国登録有形文化財に

11月17日、国の文化審議会が明治時代後期建築の「旧西垣家住宅」を国登録有形文化財に登録するよう文部科学大臣に答申しました。主屋が造形の規範、旧納屋・塀が歴史的景観に寄与すると評価されました。

市で国登録有形文化財に登録されるのは、6カ所18件目。市長は「新たな観光スポットができる。観光客に楽しんでもらえる」と喜びました。



北西側から見た旧西垣家住宅主屋

## 恐竜化石発見の4市町が連携 にっぽん恐竜協議会を発足

11月26日、山南住民センター周辺で行われた丹波竜フェスタにさきがけ、恐竜化石を活用した地域活性化に取り組む自治体連携協定が締結されました。参加したのは、丹波市、篠山市、北海道むかわ町、熊本県御船町。4市町は、自治体ネットワーク「にっぽん恐竜協議会」を発足し、恐竜化石を活用した地域づくりをめざして交流を開始します。同時に、恐竜化石が発掘された自治体に働きかけ、協議会の会員を増やしていくことを確認しました。

同日に行われた丹波竜フェスタでは、4市町の連携協定を記念した講演が行われました。小林快次北海道大学総合博物館准教授が基調講演を行い、4市町をはじめとする日本にいたとされる恐竜について解説しました。フェスタ会場では、動く恐竜ロボットの設置や元気村かみくげによる恐竜化石発掘体験や恐竜検定、ワークショップなども行われました。会場では、あちこちから子どもたちの元気な声が上がっていました。

## 柏原支所の観光拠点化に向けて 懇話会が提言書を提出

11月17日、柏原支所の観光拠点化整備について議論を進めてきた「市観光拠点整備懇話会」から提言書が市長に手渡されました。

情報発信機能や観光コンシェルジュ機能などの案がまとめられています。

岡林座長は「提言書をふまえ、支所が市全域の観光拠点として有効に使われるような施設になることを願う」と話し、期待を寄せました。



提言書を手渡す岡林利幸座長（写真左）と谷口市長



連携協定を結んだ藤木御船町長、谷口丹波市長、竹中むかわ町長、酒井篠山市長（写真左から）



にぎわう丹波竜フェスタ会場

## 未来を支える産業をテーマに タウンミーティングを開催



それぞれの取り組みや課題について意見交換をする参加者たち

11月19日、氷上住民センターで市民のニーズや意見を市政に反映するため、タウンミーティングが開催されました。第3回目は「農業・林業・商工業の振興」をテーマに25人が集まり意見を交換しました。

参加者は「異業種の人たちと意見交換ができてよかった。様々な分野の取り組みについて知ることができた」と話しました。